

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

部門名 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名 鹿児島県霧島市立三体小学校 津田金造 平成29年度第2回中堅教員研修
活動名 学力アップ三体小メソッド PDCAサイクルに基づく校内研修	
解決すべき課題 昨今、児童の学力低下が喫緊の課題である。児童に「確かな学力」を身に付けさせるために、教員は常に研修に励み、力量を高めていく必要がある。本研究は、平成29年度第2回中堅教員研修で履修した組織マネジメントの考えを基に、ビジョンや方針を確実に教員全体に示した。各々の教員が、同じ方向性をもって、資質や能力を駆使しながら、相互に学び合い、高め合う校内研修を探りたいと考え、設定した。	
目標・方針	
課題 ・児童の学力 ・教員の授業力	仮説 「探究的学習」と「習得的学習」のバランスを考えた学習過程や環境を工夫すれば、基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等が身に付き、主体的に学び続ける教員が育成できるのではないか。
活動内容 ・「探究」と「習得」のバランスを図った学習過程の構築 ・話し合い活動の工夫、PDCAサイクルを基にした校内研修の充実	
主体的に学び続ける教員の育成	
活動の成果	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織的なPDCAサイクルを基に、学力向上の共通課題を発見し、課題改善に取り組んだことは、授業構成力、実践力などの授業力を向上させる上で、有効であった。(図1) ○ 学習過程に「探究」と「習得」のバランスを図ったことで、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等の相関性を保ちながら、高めることができた。(表1) ○ ワークショップ型研修が、教員の専門性、協働性を高め、児童の学力向上につながった。(図2) ○ 授業でペア学習やグループ学習での話し合い活動を取り入れたことで、言語活動の充実が図れ、課題に対する見方や考え方の視野が広がり、理解を深めることができた。(図3) ○ 前期、後期の学力及び教員の意識調査の結果から、いずれの項目も向上できた。教員からは、「学校全体で、各々が同じ意識をもって取り組めたことは、意義がある。」と感想が寄せられた。(グラフ1) 	
アピールポイント (アイデアや工夫)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修における、教員一人一人の学び合いは、自己の力量を高め、意欲や探究の向上につながり、延いては児童の学力向上に還元できた。 ○ 「基本的な学習過程」を明確に示し、学校全体で共有することで、授業改善の新たな視点が開かれるだけでなく、学校全体の学力を向上することができた。 ○ PDCAサイクルの考えの基、学校組織全体を活性化することができた。また、学習過程の流れやワークショップ型研修、本校独自のメソッドを設定したことで、次年度へ持続性をもたせ、反映させることができた。 	

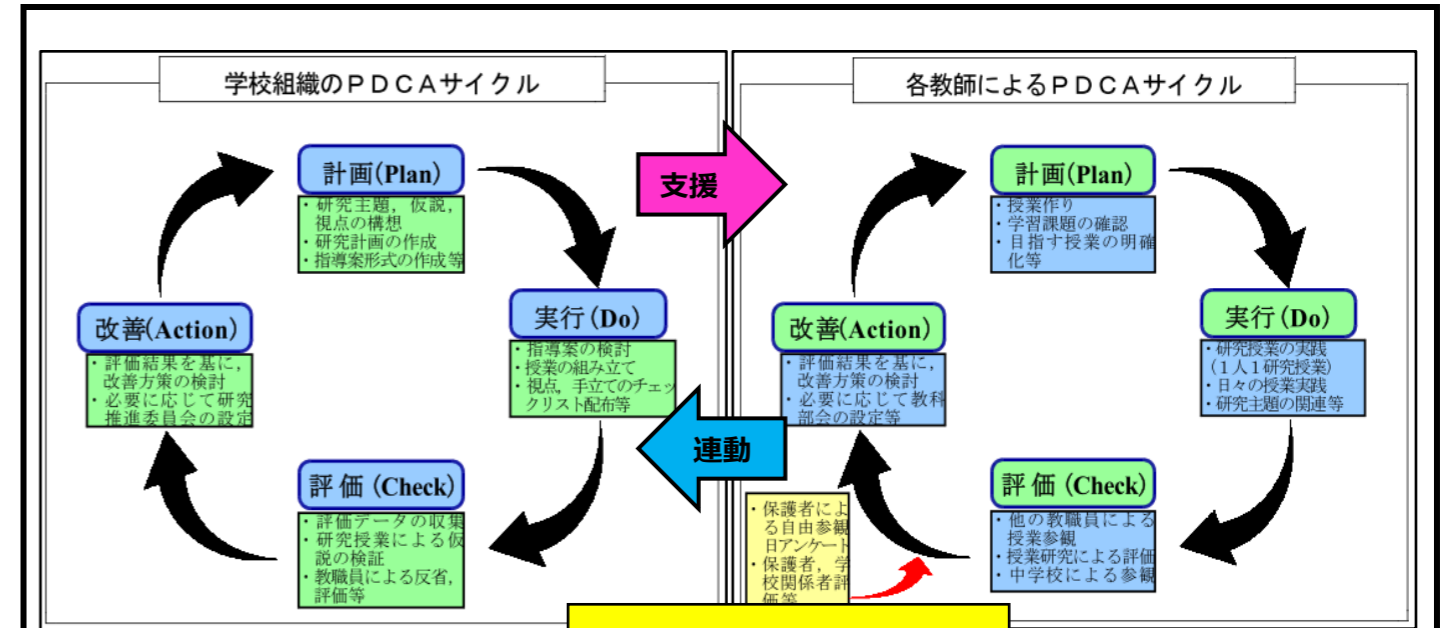


図1 PDCAサイクルの考え

表1 学習過程	
本校の学習過程	指導にあたって
学習過程	○ 学習課題の提示～生活場面に関連のあるもの、興味・関心を高めるもの、既習内容では解決できない内容を含むもの等 ○ 学習課題の焦点化～分からないところ、疑問なところ、新しい内容等をはっきりさせ、学習課題を焦点化させる。
つかむ	○ 既習事項の活用を目を向けさせる。 ○ 「もしかすると、○○すればいいかも」、「もしかすると、○○を使えば解けるかも」等の考えを大事にする等、解決方法に見通しをもたせる。
探究的	○ 机間指導をしながら、理解できていないところなどを確実に把握する。 ○ 多様性を大事にししながら、自力解決を行う。 【取次】
見通す	○ 話し合い活動で、考え方や解き方を伝え合い、練り上げ、発表させる。 ○ 「分らなかったところ」、「できなかったところ」に留意しながら、合理性、普遍性などを踏まえる。 【取次】
考える	○ 学習課題→学習問題→まとめの流れに即して学習をふり返り、確認させる。 ○ 学習内容のポイントは、合理性、普遍性などを踏まえて的確に整理する。
学習	※ 一校一改善 適応問題の取組 (終末10分) ○ どのくらい定着が図られたか確認するために、練習、発展問題等に取り組ませる。 【ポストテストの実施】 ○ 次時につながる課題を知らせる。
深める	
習得	
ふり返る	
学的	
生かす	

P(計画)
授業者には、研究テーマ、視点に沿った授業を綿密に計画させた。研修者には、授業の記録や撮影、司会を役割分担させた。授業参加者には、ただ授業を観るだけでなく、授業の視点を示したマトリックスシートを事前に配布し、見直しをもたせた。

D(実行)
授業者には、研究テーマの視点を踏まえた授業の組み立てを意識させた。また、授業参加者には、マトリックスシートを基に3色の付箋紙を配布し、参観の視点について、気付いたことを書かせた。

C(評価)
これまでの授業研究を振り返ると、質疑応答や研究協議の場面で、発言が一部に限られ、なかなか討議の活性化につながりなかった。そこで、ワークショップ型授業研究を取り入れた。事前に授業研究の仕方や目的を教員全体に具体的に説明し、主体的かつ積極的な参加を促すことで、授業における実践的な探究力の向上を目指すという授業研究の本質を迫りながら、同時に教師全体の協働性の向上と組織としての学校の教育力を高めた。

A(改善)
授業研究で出された成果と課題はもちろんだが、毎学期ごとに研究の成果と課題や達成状況を職員全体に振り返ってもらい改善に生かした。また、小学校・中学校の連携を図り、定期的に中学校教員による授業参観を行い、小学校から中学校に教員全体の協働性の向上に向けて学力向上の認識を深めた。

マトリックスシート

ワークショップの様子

ワークショップ型授業研究の仕方

学期末の成果と課題

図2 ワークショップ型研修

図3 話し合い活動の仕方

グラフ1 前期、後期の学力及び意識調査

12月教師の学び意欲	60
6月教師の学び意欲	65
12月思考・表現	65
6月思考・表現	65
12月知識・理解	65
6月知識・理解	65